

# 奄美の風だよ

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

Vol. 20

(春号：5)

2005. 4. 10

A N C : News Letter



〔ナンゴクホウチャクソウ〕 中央林道にて撮影 H17年3月

ようやく、吹く風が心地よく感じられるような季節になりました。この冬は寒かったうえに雨がふり続き晴れた日はわずかでした。一番寒いと言われる2月を過ぎて春間近の3月に入って平地ではあられが降り、湯湾岳や瀬戸内町の油井岳では雪が降ったと報じられて話題になりました。

そんな寒い中、今年も3月20日に行われた奄美野鳥の会主催の「オオトラツグミ一斉調査」に参加しました。早朝5:40分～6:40分の間に往復4kmの林道を二人一組で歩きながらさえずりを確認する調査です。さえずりが聞こえたら時間と方角(方角は地図とコンパスで確認)を記録していきます。暗い中電燈を照らして歩き始めました。しばらく歩いて行くと「キョロロン」と遠くの山から鳴き声が聞こえてきました。さらに歩き続けて3,4羽の鳴き声を聞くことができました。さえずりを聞いた瞬間は早朝起床の辛さなどは吹っ飛んでいました。調査の終了する頃にはすっかり夜が明けていました。林道沿いでは「ナンゴクホウチャクソウ」の白い花が春の訪れを告げるかのように可憐に咲いていました。

## 千石先生の講演会が開催されました。

鹿児島県主催の講演会が、3月26日(土)に大和村体育館で開催されました。テレビ出演などでおなじみの(財)自然環境研究センター研究主幹の千石正一先生が「奄美の外来種について」と題して講演されました。

外来種が増えると生態系が変わると話され、奄美ではハブ対策で持ち込まれたマングースが奄美の固有種を脅かしていることやアメリカザリガニに押されて日本ザリガニが絶滅したことなどを話されました。さらには海外での外来種の影響(カエルの例を取り上げて)についてもスライドを見せながら詳しく解説されました。講演終了後は子供さん達の質問にわかりやすく説明してくださいました。

午後からはイベント「ウォーターレタス駆除作業」を行いました。イベントに参加された親子さん達を三田川とセンター近くの大和川の2班に分けて作業をしました。三田川では川中が見えないほどに川面をウォーターレタスが覆っていました。子供たちは川の中に入って膝まで水に浸かりながら取り除いていきました。ウォーターレタスはだいぶ分減りましたが、完全に取り除くことはできずに、まだ残っています。

増え続けた外来種を駆除していくのは容易でないことを感じさせたイベントだったのではないのでしょうか。

### 「講演会の様子 (大和村中央公民館)」



(講演中の千石先生)



(講演を聴いている親子さん)

### [ 大和川でのウォーターレタス駆除作業 ]



三田川



大和川

# 新聞記事

# 身近な生きもの情報

## 野生の生きもの観察日記

### 『春の自然日記：身近な外来種を考えよう』

例年になく暖かい冬の始まりとなった奄美でしたが、新しい年を迎えてからは冬らしい気候になりました。しかも、3月になってもまだ春の暖かさはなく、それどころか湯湾岳などの山間部では、雪が記録されました。小さな氷の固まりが降ってくる雹（ひょう）は、毎年見るのですが、まさか奄美で雪が降るとは驚きでした。こうした冬の寒さは生き物の暮らしにも影響します。カエルや鳥の子育てが遅れているという情報がセンターにも寄せられています。

皆さんは『外来種』と聞くと、センターで対策事業を行っているマングースをイメージするかもしれませんが、身近な生き物にも外来種はたくさんいます。3月下旬のある日、身近な外来種について考えるイベントに参加しました。今回のターゲットはボタンウキクサ（ウォーターレタス）という熱帯産の水草です（写真）。もともとは観賞用として入ったのですが、それが野に放たれ、池や川の流れの少ない場所で増えています。私が担当したセンター近くの水場では、水面が見えない程に茂っていました。



ウエットスーツを着て水に入ると、水底はぬかるんだ泥のようになっていて、昔ここから湧き水が出ていたという形跡はほとんど感じられませんでした。水面の一面に広がるボタンウキクサを竹の棒などでかき集め、参加した子供たちがそれを地上に上げて回収します。決して大きくない水場、そして水面に浮いているだけ（＝簡単に動く）のボタンウキクサ、初めは回収はそんなに難しくないと思いました。ところが、予想外に量は多く、しかも高さ20cmほどに成長した水草は意外に重く、回収作業はなかなかかどりません。子供たちも作業を頑張り、結局この水場だけでゴミ袋にして170個分を回収しましたが、すべてを取り除くことはできませんでした。でも、最初は全く見えなかった水面がかなり見えるようになり、あと数回この作業をすれば、完全にこの水場からボタンウキクサを取り除けるといふ、確かな手応えを感じました。

ボタンウキクサはもともと熱帯産の植物だけに、奄美の暖かい気候ではかなりのスピードで広がります。この日作業した水場も、しばらく放っておくと、また元のように水面を覆うほどにボタンウキクサが戻ってしまうそうです。後日様子を見に行くと、小さなボタンウキクサや他の外来の水草が、水面を少しずつですが覆っていました（写真）。再び水に入って、作業をする日も近いようです。（センター 中村）



（作業前）



（作業の翌日）



（作業から7日後）



（作業から13日後）

# 情報マップ 地図

# 春にみられる野生生物

※参考文献：図鑑奄美の野鳥：琉球弧・野山の花

「タゲリ」 チドリ目 チドリ科 全長32cm

ハトぐらいの大きさで、頭に長い冠羽のあるずんぐりとした大形のチドリである。体の上面は、緑色や淡紅色の金属光沢のある緑黒色で、下面は白く胸に幅の広い黒帯がある。下尾筒（おしりの付近）が橙色で、尾の先が黒く足は黒い赤紫色である。飛ぶと翼の下面に白黒のはっきりした模様があらわれる。全国的に冬鳥として渡来するが、北陸や関東北部などで繁殖している。奄美へは、冬鳥として水田や草地などに渡来する。

鳴き声：ミューツ、ミューツ、など

生息時期：10月～12月～4月



「ツグミ」 スズメ目 ヒタキ科 全長24cm

頭や背、腰や尾は黒褐色で、翼は黒褐色に栗色の羽縁がある。顔は淡い褐色の眉斑が目立ち、のどから胸にかけては白っぽく、胸から脇にかけて黒褐色斑がある。翼は栗色味の強いものや灰黒色に近いものまで個体差があり、胸や脇の黒褐色斑も個体によって変化がある。また、啞種ハチジョウツグミは体の上面が黒褐色で、下面は赤褐色味をおびている。冬鳥として全国に渡来し、主に地上でミミズや昆虫類を探すが、山地などで木の実も食べる。奄美へも冬鳥として渡来し、農耕地などで餌を探している姿が見られる。

鳴き声：クワツ クワツ、クイツ クイツ、など

生息時期：11月、12月～4月



「ナンゴクホウチャクソウ」 ユリ科

山地の林内や林縁に生える多年生草本。茎は上部で多少分岐して高さ30～60cmに達する。葉は長さ5～10cm。花は白色で芳香がある。花被片は6個でほぼ同大。基本種のホウチャクソウは北海道～屋久島に分布し、花被片が大きく、長さ2.5～3cm、花に芳香はない。



## カニの子の群れが川を上流へ移動中！

4月8日(金)津名久集落に住んでおられる平瀬さんが、川でモクズガニの子供が上流へ向かって移動していると教えに来てくれました。しかもウナギがカニを食べているとのことでした。さっそく津名久川へと急ぎ降りてみました。すると、護岸の石積みを驚くほどの小さなカニの子供の群れが移動中でした。動いているのはわかりましたが移動しているようには思えないほどの小さいカニの子供です。石の上ばかりでなく水中を移動している何匹かのカニもいましたのでそちらを観察していると、穴からウナギがひょこっと顔を覗かせました。私達に気づいたらしく、さあーと穴へ隠れてしまいました。再び群れを見ると次の石へと移動していました。近づいても肉眼でははっきりとは姿がわからないほどの小ささでしたが、後でビデオを見ますと、はっきりとカニの群れが移動する姿が写されていました。

貴重な情報を寄せてくださった平瀬さん有り難うございました。

「大和村の津名久川を上流へ移動中のカニの子供の群れ」



## 奄美野生生物保護センターの事務補佐員紹介です。

今年4月から、有田さんの後任として奄美野生生物保護センターの事務補佐員になりました細川です。生まれも育ちも宮城県で平成14年10月に大和村に引っ越してきました。奄美の自然に惹かれてやってきたのですが、その豊かさ深さに圧倒されています。

慣れない仕事に戸惑ってばかりですが、自然保護官の阿部さんや自然保護専門員の中村さん、協議会の永野さんにお世話になりながら頑張っています。少しでも早く仕事を覚えて奄美の自然を勉強していきたいとおもいます。どうぞ宜しくお願い致します。

### 編集後記

おだやかな陽気になったせいでしょうか、最近は保護センター前のウォーキングコースを歩く人達が少し多くなったような感じがします。

今年度もどうぞ宜しくお願い致します。

**編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局**

〒894-3192

**鹿児島県大島郡大和村大和浜100**

**大和村役場 企画財政課**

**TEL：0997-57-2111**

(連絡・書類等送付先)

**〒894-3104**

**鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551**

**奄美野生生物保護センター内**

**TEL：0997-55-8620**

**FAX：0997-55-8621**